

令和3年度 社会福祉ボランティア大学校 研修予定



	研修名	目的・内容	開催場所(予定)	開催日程(予定)
市民活動を始めたい方への入門的研修や、ICTの活用について学ぶ研修	まちづくりセミナー	さまざまな分野で活動・研究者している方の話を聞き、地域づくりやボランティア・市民活動の参加促進を図ります。		【全3日間開催】 6月12日・19日・26日
	新たな社会問題に対応する講座 ～子育て支援ボランティア養成講座～	子どもが健やかに育つための支援として悩みごと相談、子ども食堂、虐待防止など、子どもが直面する問題に対応するボランティア活動を取り上げ、参加促進を図ります。	ウエルとばた	8～9月
	ふくしのまちづくり講座	地域の課題解決と仲間づくりを目的に、校(地)区の方と一っしょに企画・運営していく実践型の研修です。	開催校(地)区 ※年間14校(地)区	4～3月
	市民講演会	社会問題や地域課題を取り上げ、ボランティア・市民活動への参加のきっかけとなるような学習機会を提供する研修です。	ウエルとばた	10月
ボランティア活動の経験が深まるための研修や、ICTの活用について学ぶ研修	福祉有償運送運転協力者研修	シルバーひまわりサービス等福祉有償運送で、運転を希望する方を対象にした、福祉車両及びセダン型車両の実技や法規を中心に学ぶ、国土交通省が認定する講習です。	○:福祉車両 クレカ若松 ():セダン型 ウエルとばた	①5月23日(日) ①5月29日(土) ②2月10日 ③3月2日
	障害への理解を深め、はじめよう ボランティア入門講座	障害への理解を深め、障害のある方への支援のあり方について学び、ボランティア活動への参加促進を図ります。	ウエルとばた	6月
	腕自慢ボランティア養成講座	誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、自分ができる範囲で屋内の修理や家具の移動など日常生活の簡単な手助けをするボランティア活動についての講座です。	①小倉南区 ②八幡東区	5月～7月
	災害ボランティア養成講座	災害時の基礎知識や、身近なところで災害が起きた時の役割、備え、心構えについて学び、ボランティア活動の参加促進と人材を養成する講座です。	①若松区 ②八幡西区	7月～9月
	傾聴ボランティア・フォローアップ研修	傾聴ボランティア養成講座修了者および活動経験者のスキルアップを図るとともに、活動者同士の情報交換や交流により、さらに充実したボランティア活動ができるようにフォローアップします。	ウエルとばた	4月
	ボランティアリーダー研修	ボランティア団体等のリーダーや次期リーダーに、リーダーシップや運営手法を学んでいただくと共に、情報提供などを行い、スキルアップを図ります。		10月
自分たちの地域やボランティア活動を、進めたい方への研修	現任福祉協力員研修	新任福祉協力員等研修終了後、福祉協力員が、活動を続けていく中での課題解決や新しい情報を身につけ、スキルアップを図る研修です。	各区	9～12月
	地域福祉活動専門研修	地域福祉活動に関する専門的なテーマについて知識や技術を高めます。		12月
	地域福祉活動指導者研修 「トップセミナー」	校(地)区社協の役員等を対象として、社会福祉の大きな流れをつかみ、情報共有・提供を行うための講演会です。		2月
	校(地)区社会福祉協議会 新任役員研修	校(地)区社協の新任役員としての基本的な姿勢や技術を学びます。	ウエルとばた	6月
活動を始めたい企業・社会福祉法人の方に	まちづくりセミナー	校(地)区社協・まちづくり協議会役員・市民センター職員等を対象として、より良いまちづくりを目指し、研修・情報交換・討論などを行い、みんなで活動を深めていくセミナー形式の研修です。		9～11月
	企業の社会貢献活動セミナー	ICTの活用を検討して、企業に向けて、ボランティア・市民活動の周知や企業単位での従事者向けボランティア講座開催の働きかけなどを行い、取り組みを促進する研修です。	ウエルとばた	1月
	社会福祉法人の社会貢献活動セミナー	ICTの活用を検討して、社会福祉法人の社会貢献に対する理解を深め、ボランティア・市民活動へのきっかけづくりを目指す研修です。		2～3月
活動を支援する方に	ボランティアコーディネーター研修	ボランティア活動を推進するため、福祉施設や市民センター、中間支援組織でコーディネーター業務を担う職員を対象として、コーディネーションの基本や技術を学びます。	ウエルとばた	7月

※新型コロナウイルス感染拡大の状況などによっては延期・中止の場合もあります。

シリーズ福祉エッセイ「しあわせづくり、ひとづくり」③③

コロナ禍における
災害時の「たすけあい」

一般社団法人 九州防災パートナーズ

代表理事 藤澤 健児 さん



●みんなで一緒に作る「安心できるまち」

世界で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、社会の在り方や、生活スタイルまで変えています。令和2年7月豪雨災害では、外部からの災害支援活動が制限され、被災地の復旧復興において大きな制約となりました。

私はこの水害では久留米市の復旧活動に携わっていましたが、この活動を通して、「私たちのまちは私たちで守る」という思いがこれまで以上に必要だと考えさせられました。

●久留米における災害支援活動

久留米市では3年連続して水害に見舞われていました。水害の復旧活動においては「床上浸水」の家屋を災害ボランティアセンターが担当し、「床下浸水」の家屋を主に県外のNPO等の支援団体が担うという役割分担で活動を実施してきました。しかし、今回の災害では外部支援者の活動制限により、これまで県外の団体が担当していた「床下浸水」の担い手がいないという状況になりました。このため久留米市、久留米市社会福祉協議会、NPOセンター、久留米市内のNPO団体や大学、個人ボランティア等関係者と協議し、

①住民向け床下浸水対策講座

被災された住民の方々に、床下浸水の点検方法や対応策の講習会を実施し、住民の皆さんで対策が実施できる方は自分で対策を実施してもらう取り組み。

②床下浸水対応人材育成研修

久留米市内の方々で床下浸水対応ができる人材を養成し、自身で対応ができない方に対して支援活動を実施する。

という2点の対策を作り、久留米市民で復旧復興活動が完結できるような取り組みを行いました。

●くろめ災害支援ネット(ハッシュ#)の設立

人材育成研修の受講者の有志で「くろめ災害支援ネット(ハッシュ#)」を設立し、災害に備えて準備を進めています。現在はハッシュのメンバーで校区ごとの住民向け講座を実施しています。

新型コロナウイルス感染症の影響で地域の繋がりが希薄化する懸念がありますが、久留米市におけるこれらの活動はコロナ禍でのわがまちの防災の取り組みに大きなヒントになると思います。

受講者募集

令和3年度 まちづくりセミナー

「Withコロナのまちづくり」～ICTを活用し明るい未来をめざして～

新型コロナウイルスが蔓延し、私たちの日常生活が大きく変わりました。マスク越しの会話、集まりの制限、病院等での面会制限、大切なソーシャルディスタンス。でも人との心の距離も遠くはなっていませんか。Withコロナ時代の「今」を見つめ、あなたと私が安心して暮らせるやさしさあふれるまちづくり。ICT(情報通信技術)も活用し、つながる力を高めていく、そんな未来を一緒に考えていきませんか?

- とき 6月12日(土)・19日(土)・26日(土) 全3回 10:00～12:00
- ところ ウエルとばた12H・研修室(戸畑区汐井町1-6)
- 受講料 700円(定員30名)
- 申込み 5月18日(火)までに電話(☎881-6321)でお申込ください

※新型コロナウイルス感染拡大の状況などによっては延期・中止となる場合があります。

